

# 經濟論叢

第十四卷 第六號

故名譽教授神戸正雄博士遺影および筆蹟・原稿

統計学=社会科学的認識手段論の 問題点……………	大橋隆憲	1
資本主義の運動法則における 論理的なものと歴史的なもの(二)…	吉村達次	17
急速税務減価償却をめぐる 所得税会計の保守主義……………	高寺貞男	37
ヘンリ・ジョージについての考察…	北沢康男	55
ソースタイン・ヴェブレンに関する 一研究……………	中山大	68
神戸正雄先生による 再保険特約方式の輸入……………	佐波宣平	85
<b>記事</b>		
神戸先生御逝去……………		91
追憶文……………		96

新村出	井藤半弥	本庄栄治郎	小島昌太郎
石川興二	蛭川虎三	大谷政敬	小山田小七
堀江保蔵	島恭彦	松井清	

昭和三十四年十二月

京都大學經濟學會

## 財政学界の巨星

井 藤 半 弥

神戸先生が、わが国の財政学界の最高權威として、ながく学界をリードしておられたことは、いまここで、あらためて述べるまでもないことである。シャノン教授の高弟として外国学界でも、その業績はたかく評価されている。私をはじめ先生の声款に接したのは、京大を停年で御退職されたからである。たしか昭和十五年のことであつたかと思ふ。日本經濟政策学会の創立の準備会が、一橋講堂内の一室でひらかれたときのことである。それから後、最近にいたるまで日本財政学会その他の学会や、いろいろの委員会の席で、たえず先生の重厚な温容に接し、ひたしく御指導を仰ぐことができた。ここ一兩年來、先生が東京にこられる回数が少くなり、私も何かと雑務におわれて、会合には欠席がちとなつたりして、拝眉の機会が少なくなつていた。健康を害しておられるという話も耳にしたが、数カ月前に公刊した拙著を贈呈したとき、いつもの通り御丁寧な挨拶状をいただいたりしておつたので、かくも急に永眠されるとは予想もしていなかつたのである。先生御逝去の新聞記事をみて、愕然としておどろき、かつ悲んだ。

私は率直にいいたい。私の今日までの奮奮生活で、財政学の

研究の上において、私を、もっとも力強く導いてくれたものは、先生の諸研究、ことに『租税研究』である。私が何か財政学、ことに租税の学説について勉強をはじめようとするとき、内外國の文献のうち、まず第一に繙くものは先生の諸著作、ことに『租税研究』であつた。これを手引きとして研究をすすめてきた。これは私が過去三十年以上の間とりつづけた方法であり、今後とも終生かわらず、つづけることと思ふ。三十年も以前に出版された書物が、いまでも、私の第一の、また最高の指南の書となつている。不幸にして先生の研究室において指導をうける機会にめぐまれなかつた。しかし書物を通じて、私を、もっとも強く啓示された財政学者は神戸先生であつた。

先生について、つよく印象づけられている事実は、先生が純学究で終始されたことである。関西大学長や京都市長として、学校行政や都市行政に関与されたことはある。しかし、これは、短期間のことであり、またものと学究生活に復帰せられた。学問ないし真理の探求を一生の仕事とするものが、それ以外の生活に心身を勞すことは、これも率直にいつて必ずしも望ましいこととは、いえない。先生は八十二年のながい一生を通じて、学者生活をもつて一貫されてきた。この点もわれわれの魯鑑とすべきものである。先生と縁のふかい関西大学で近く日本財政学会の総会がひらかれることとなつている。先生のお姿に接し得なくなつたことは、まことに遺憾至極のことである。